



発行：神戸大学大学院医学研究科小児科 こども急性疾患学部門

神戸こども初期急病センター



2011年 6月受診者数：2348人

訴え

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

- 1. 発熱 : 1465人 (1179人)
- 2. 咳 : 754人 (161人)
- 3. 鼻汁 : 501人 (11人)
- 4. 嘔吐 : 467人 (179人)
- 5. 発疹 : 321人 (231人)

疾患頻度

- 1. 急性上気道炎・咽頭炎 : 870人
- 2. 感染性胃腸炎 : 354人
- 3. 気管支炎・肺炎 : 138人
- 4. 気管支喘息 : 138人
- 5. 手足口病 : 91人



今月のワンポイント！

今年は例年よりも早く梅雨が明け、暑い日が続いています。寒い季節はインフルエンザなどが流行しますが、暑い季節も、いわゆる「夏かぜ」と言われるウイルス感染症が流行します。手洗いを習慣にし、クーラーによる冷え過ぎに注意するなど、予防を心がけて下さい。

さて、6月は2348人の患者さんが、神戸こども初期急病センターを受診しました。発熱、咳、嘔吐の症状で受診される患者さんが多いのは、いつもの月と変わりませんが、今月は、発疹のために受診した患者さんが多数みられました。水痘（みずぼうそう）の患者さんは、毎月一定数受診されますが、6月は、手足口病の患者さんが多数受診されたことが特徴的でした。兵庫県感染症情報センターからの報告でも、6月に入って、急速に手足口病の患者さんの数が増加しています。手足口病はウイルス感染症で、飛沫感染、接触感染、糞便を介した感染によって広まりますから、保育園や幼稚園などでは、手洗いの励行と排泄物の適正処理が大切です。



手足口病では、感染してから3～5日後に、口の中、手のひら、足底や足背などに数mmの小水疱の発疹が出ます。臀部（おしり）に発疹がみられることもあります。熱は出ることも出ないこともあり、通常は数日で治りますが、時に髄膜炎などの合併症を認めることもありますので、注意深く様子を見てあげることが大切です。頭痛や頻回の嘔吐がみられたり、ぐったりしているなどいつもと様子が違うときは、早めに受診して下さい。

この季節は、感染症だけではなく、熱中症に対する注意も必要です。節電は大切ですが、適切な室温管理をして下さい。水分補給も忘れずに。